©T. Tairadate

矢部優典　YABE Yusuke【チェロ】

8 歳よりチェロを始め毛利伯郎氏に師事。
第 86 回日本音楽コンクールチェロ部門第 2 位及び E.ナカミチ賞受賞。
第 69 回全日本学生音楽コンクール高校の部第 1 位及び日本放送協会賞受賞。これまでに宮崎国際音楽祭、サントリーホール ARK クラシックス、リッカルド・ムーティ「イタリア・オペラ・アカデミー in 東京」等に出演。
桐朋学園大学音楽学部ソリスト・ディプロマ・コース修了。サントリーホール室内楽アカデミー第 6 期フェロー。
2023 年 CHANEL Pygmalion Days 参加アーティスト。

加藤文枝　KATO Fumie【チェロ】

京都市出身。2006 年、パリエコールノルマル音楽院に給付生として留学。2010 年、東京芸術大学音楽学部器楽科チェロ専攻卒業。学内にて、安宅賞、アカンサス賞、三菱地所賞受賞。2010・2011 年、サントリーホール室内楽アカデミー第 1 期生。2014 年東京藝術大学大学院修士課程修了、アカンサス音楽賞受賞。パリ市立音楽院を満場一致の首席で卒業。第 8 回ビバホールチェロコンクール第 1 位。第 7・8 回東京音楽コンクール弦楽部門第 2 位。FLAME 国際コンクール第 3 位。平成 23 年度京都市藝術文化特別奨励者。これまでに、故 杉山實、ドナルド・リッチャー、アラン・ムニエ、河野文昭、ラファエル・ピドゥの各氏に師事。また、室内楽を岡山潔、松原勝也、P.ルコール、E.ルサージュ、P.メイエの各氏に師事。財団法人地域創造による公共ホール音楽活性化事業登録アーティスト。Music Dialogue アーティスト。

■次回のご案内■　Music Dialogue ディスカバリー・シリーズ 2023-2024 6 月公演

字幕実況解説付きリハーサル 2023/06/21(水) 19:00 開演（中目黒 GT プラザホール）
本公演　2023/06/25(日) 16:00 開演（築地本願寺）
演奏曲目　シューベルト：弦楽四重奏曲 第 14 番 ニ短調 D.810 《死と乙女》
　　ブラームス：弦楽五重奏曲 第 2 番 ト長調 Op. 111
出演者　レグルス・カルテット (吉江美桜、東條太河、山本周、矢部優典)/ 大山平一郎

※出演者やプログラムは都合により変更になることがある場合がありますことご了承ください。

■Music Dialogue の活動は、皆様からのご支援により支えられております。

継続的にご寄付を頂いている以下の方々に、心より感謝申し上げます。
椿紅子 様・野口博司 様、福羽泰紀 様、安渕聖司 様、高橋達史 様、出石直 様、
河本宏子 様、貴田守亮 様、小出保之 様、三尾徹 様、田川利一 様（順不同）

Music Dialogue ディスカバリー・シリーズ 2022-2023 Vol. 3

築地本願寺 講堂

2023 年 3 月 3 日（金）開演 19：00

◆ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト 弦楽五重奏曲 第 5 番 ニ長調 K.593

第 1 楽章 Larghetto; Allegro　第 2 楽章 Adagio

第 3 楽章 Menuetto　第 4 楽章 Allegro

篠原悠那(Vn.) 枝並千花(Vn.) 山本周(Va.) 大山平一郎(Va.) 矢部優典(Vc.)

◆ヨハネス・ブラームス 弦楽六重奏曲 第 2 番 ト長調 作品 36

第 1 楽章 Allegro non troppo　第 2 楽章 Scherzo, Allegro non troppo - Trio, Presto giocoso

第 3 楽章 Poco adagio　第 4 楽章 Poco allegro

篠原悠那(Vn.) 枝並千花(Vn.) 山本周(Va.) 大山平一郎(Va.) 矢部優典(Vc.) 加藤文枝(Vc.)

休憩

◆お客様とのダイアローグ

※演奏者に聞いてみたいことなどありましたら、以下の方法か QR コードから
ぜひ質問や感想を送信してください。

インターネットにて「**sli.do**」と検索→イベントコード「**4522844**」を入力

［主催］一般社団法人 Music Dialogue
［協力］日本音楽財団（日本財団助成事業）
［助成］芸術文化振興基金
［協賛］築地本願寺

作品解説

◆ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756 年 - 1791 年) 弦楽五重奏曲 第 5 番 ニ長調 K.593

30 代といえば今も昔も働き盛りの年代だ。“神童”として知られた W.A.モーツァルトも 20 代では安定したポストを得られず悶々とした時期を過ごしたが、歴史に残る大作は 30 歳の年に書いた成功作《フィガロの結婚》以降にひときわ多い。そんな彼が弦楽五重奏曲第 5 番を作曲した 34 歳の頃には、まさか自分が翌年末に人生の幕を下ろすことになるとは露ほども思っていなかったであろう。モーツァルトの晩年と言えば史実に基づかない捏造話も流布するが、いずれにせよそのイメージは穏やかならぬものだろう。実際この作品が制作された 1790 年は前年のフランス革命の煽りを受けて欧州全体が混迷を極めており、短い人生で約 600 もの作品を残した多作な彼でさえ、この年の制作数は 10 にも満たなかった。コロナ禍に翻弄されてきた我々も他人事ではないが……。

ハンガリーの裕福な音楽愛好家のために書かれたとされる本作は全楽章を通してオペラにも比肩しうるダイナミックさを持ちつつも、交響曲第 41 番《ジュピター》を思わせる緻密な対位法が印象的だ。特に第 1 楽章の場面を繋げるようなグラデーション、第 4 楽章の悲劇にも喜劇的な燦爛さにも寄せない見事な中庸さはモーツァルトの絶妙なバランス感覚でこそなせる色彩のように感じる。ともすれば聞き流してしまうほどに繊細な仕事、まさに「上善水の如し」。ぜひ細部まで堪能していただきたい。

◆ヨハネス・ブラームス(1833 年 - 1897 年) 弦楽六重奏曲 第 2 番 ト長調 作品 36

モーツァルトの死から 42 年後に生まれたブラームスは、宮廷や教会に属さずとも音楽家の立身出世が叶う時代ににその才能を花開かせようとしていた。名声確立への転機となった『ドイツ・レクイエム』を書いたのが 35 歳の頃。モーツァルトが『レクイエム』を書き亡くなった年齢である。晩熟なイメージもあるブラームスだが、それは先人への人一倍強い敬意ゆえでもあり、20 歳でシューマンから高い評価を受けつつも、交響曲や弦楽四重奏曲といった歴史ある曲種では納得できる作品をなかなか完成できなかった。32 歳の頃に楽譜出版に至った弦楽六重奏曲第 2 番は、そんな彼も重圧に比較的苦しむことなく書き進められたのかもしれない。

本作は過去の恋人、婚約まで話が進んだアガーテ（Agahte）への想いにまつわる逸話でも知られる。その所以は第 1 楽章に現れるアガーテ音型（A-G-A-H-E）だ。雄大な第一主題、ワルツのように心躍る第二主題と続いた後、件のアガーテ音型が第 1 楽章最大の見せ場のように登場する。第 2 楽章ではロマ（ジプシー）風の曲想が妖しさと高揚感をもって心をくすぐり、第 3 楽章では第 1 楽章の面影を感じるメロディが悲しみから癒しへと向かうように変奏・展開していく。そしてブラームスの凪いだ心情を表すかのように最後の第 4 楽章は軽やかかつ穏やかに締め括られる。この手の話には尾ひれはひれつくのが常ではあるが、作曲家の恋模様と作品とを寄せて音楽に浸るのもまたロマン派音楽の醍醐味かもしれない。

（鈴木和音／MD Writing Intern Project）

演奏者プロフィール

篠原悠那　SHINOHARA Yuna【ヴァイオリン】

第 80 回日本音楽コンクール第 2 位、岩谷賞(聴衆賞)受賞。カルテット・アマービレのメンバーとして第 65 回 ARD ミュンヘン国際音楽コンクール弦楽四重奏部門第 3 位、ニューヨーク YCA オーディション第 1 位受賞。第 22 回ホテルオークラ音楽賞受賞。メニューイン国際音楽アカデミー（スイス）を修了しディプロマを取得、桐朋学園大学大学院修士課程修了。辰巳明子、マキシム・ヴェンゲーロフ、篠崎史紀各氏に師事。使用楽器は 1832 年製 G.F.プレッセンダ ex"カール・フレッシュ"　（宗次コレクション）

©松尾淳一郎

枝並千花　EDANAMI Chika【ヴァイオリン】

第 52 回全日本学生音楽コンクール中学生の部全国第 1 位。第 24 回ミケランジェロ・アバド国際ヴァイオリンコンクール優勝、及びソナタ賞受賞。2006 年 4 月東京交響楽団へ入団。退団後はソリスト、室内楽奏者、コンサートマスターとして幅広く活動。これまでに奥村和雄、辰巳明子各氏に師事。 日本フィルハーモニー交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団等にゲストコンサートマスターとして招かれる他、宮崎国際音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ、東京春音楽祭などへ出演。Music Dialogue アーティスト。これまでに 3 枚のアルバムをリリース。

山本周　YAMAMOTO Shu【ヴィオラ】

3 歳よりヴァイオリンを、18 歳よりヴィオラをはじめる。桐朋女子高等学校音楽科(男女共学)、桐朋学園大学を経て同研究科修了。室内楽、オーケストラ奏者として国際音楽祭 NIPPON、武生国際音楽祭、東京・春・音楽祭や宮崎国際音楽祭などに出演。また首席奏者として新日本フィルハーモニー交響楽団、日本センチュリー交響楽団などに客演。これまでにヴァイオリンを森川ちひろ、徳永二男の各氏に、ヴィオラを佐々木亮氏に師事。サントリーホール室内楽アカデミー第 4 期～第 6 期フェロー。

大山 平一郎　OHYAMA Heiichiro【ヴィオラ】

英国のギルドホール音楽学校を卒業。1972 年マールボロ音楽祭にヴィオリストとして参加後数多くの国際音楽祭に招待され、またギドン・クレーメル、ラドゥ・ルプー、ミッシャ・マイスキーなど著名な音楽家とも共演する。1973 年カリフォルニア大学助教授に就任。1979 年にジュリーニ率いるロサンゼルス・フィルハーモニー管弦楽団の首席ヴィオラ奏者に任命され、1987 年にプレヴィンから同楽団の副指揮者に任命される。その後サンタフェ室内楽音楽祭芸術監督、九州交響楽団の常任指揮者、大阪交響楽団の音楽顧問・首席指揮者等を歴任。福岡市文化賞、文部科学大臣賞（芸術祭優秀賞）を受賞。現在、The Lobero Theatre Chamber Music Project（米国サンタ・バーバラ）音楽監督、CHANEL Pygmalion Days 室内楽シリーズのアーティスティック・ディレクター、Music Dialogue 芸術監督。